

## 日本児童文学学会 9月例会のご案内

拝啓 猛暑到来となりましたが、皆様方におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
このたび、日本児童文学学会9月例会を下記の通り、オンラインで開催いたします。  
会員以外の方でも事前申し込みをいただければ参加できます。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

<日 時> 2022年 9月10日(土) 午後2時～4時  
<参加費> 無料

- ・発表1 = <世界名作劇場> 『小公女セーラ』を読み直す：  
ミンチン校長はシンデレラの継母か？  
清水 友理（日本女子大学学術研究員）

### 《概要》

<世界名作劇場>の枠で制作されたテレビアニメーション、『小公女セーラ』(1985)は、物語の主軸を、主人公セーラから彼女の敵役のミンチン校長に変更して映像化した翻案である。先行研究において、原作の『小公女』(A Little Princess 1905)はシンデレラストーリーの変形譚と捉えられてきた。これを踏まえると、『小公女セーラ』はシンデレラストーリーを、継母役を軸に映像化した作品といえる。このように捉え直した時、『小公女セーラ』はどのような翻案として再評価できるのか。本発表では、『小公女セーラ』を原作や2009年のテレビドラマ版『小公女セイラ』とも比較しながら分析し、これを検討する。

- ・発表2 = 日本における童話と他界観 — 「童話らしさ」の在り処  
沼本 知自（白百合女子大学博士後期課程）

### 《概要》

本発表は、日本における童話（らしい作品）の重要な要素として、他界観があげられることを、小川未明「赤いろうそくと人魚」や安房直子「夢の果て」さらに、ジュール・シュペルヴィエール「海に住む少女」や宮崎駿原作・脚本・監督「千と千尋の神隠し」など様々な題材をもとにみていく。これによって、民俗学の概念を用いた児童文学研究の可能性を論じるとともに、民俗的心性に根ざしたものとしての「童話らしさ」についても論じるつもりである。

- ・司会 = 米村 みゆき（専修大学教授）

<参加方法> Zoomを用いたオンライン開催

※参加ご希望の方は、以下のGoogleフォームでお申し込みください。  
折り返しZoomのURLをお送りいたします。  
万が一、届かない場合は例会担当 ([jscl.tokyo@gmail.com](mailto:jscl.tokyo@gmail.com)) までお問い合わせください。

当日は、午後1時45分以降に、ZoomのURLにアクセスください。  
**お申し込み時と同じお名前**で入室をお願いします。  
お名前が一致した方の入室を許可いたします。

申し込み締切：9月7日（水）

参加申し込みフォーム

<https://forms.gle/RRBQQEAxy1i8EV8X9>

